

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

令和6年度農作物病虫害発生予察情報について

令和6年度農作物病虫害発生予報及び月報を発表したので送付します。

令和6年度農作物病虫害発生予報第1号

令和6年5月1日  
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が53.8%、25株当たりの本田生息虫数が4.5頭と、平年(23.0%、1.1頭)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤による本田防除を行う。
- (2) 活着が悪い水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%、発病葉率が0.0%、発病果率が0.0%)。
- (2) 前年9月第3半旬及び10月第3半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。また、3月第3半旬の芽基部の調査でも、発病を認めていない(平年同時期は発生圃場率が2.5%、芽基部発病率が0.0%)。
- (3) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し、防除に努める。

赤星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、発病葉率が1.4%と、平年(22.5%、2.4%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) ビヤクシン類からの病原菌(小生子)の飛散ピークは過ぎたと考えられるが、5月上旬頃まで飛散する可能性があるため、防除暦に準拠し、防除に努める。

果樹共通

果樹カメムシ類(令和6年4月30日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

- 発生時期 平年より早い
- 発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、10地点で越冬を確認した。越冬成虫数は15.7頭/m<sup>2</sup>であり、平年(2.6頭/m<sup>2</sup>)に比べて高い越冬密度で、前年(成虫確認地点数は6地点、越冬成虫数は0.6頭/m<sup>2</sup>)に比べて高い越冬密度であった。
- (2) 今春の予察灯調査において、上板町では平年(4月18日)より7日早い4月11日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。
- (3) 上板町及び勝浦町に設置した果樹カメムシ類予察灯への4月第4半旬から第5半旬における誘殺数が、上板町では、ツヤアオカメムシが370頭と、平年(8頭)の46.3倍、チャバネアオカメムシが49頭と、平年(5頭)の9.8倍誘殺された。また、勝浦町では、ツヤアオカメムシが15頭と、平年(3頭)の5.0倍、チャバネアオカメムシが4頭と、平年(1頭)の4倍誘殺された(表1)。
- (4) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	上板町			勝浦町		
		2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年
4	1	0	0	0	2	0	0
	2	0	0	0	1	0	0
	3	1	1	0	1	0	0
	4	108	0	1	1	0	0
	5	262	0	7	14	0	3
	6		1	10		1	5
5	1		1	28		1	28
	2		3	18		2	20
	3		1	49		0	54

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	上板町			勝浦町		
		2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年
4	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	1	0	0
	3	2	0	0	0	0	0
	4	6	1	1	1	0	0
	5	43	0	4	3	0	1
	6		0	2		1	3
5	1		5	8		0	10
	2		3	6		5	12
	3		1	12		0	18

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ、キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は早朝か夕方を実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

- 発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7地点の平均)は、4月第4半旬まで平年に比べてやや多く誘殺されている(図1)。
- (2) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 性フェロモン剤を設置することで、雌雄間の交信を攪乱して、次世代幼虫の密度を低下させる。
- (2) 薬剤散布は6～8月を重点に3～4回実施する。

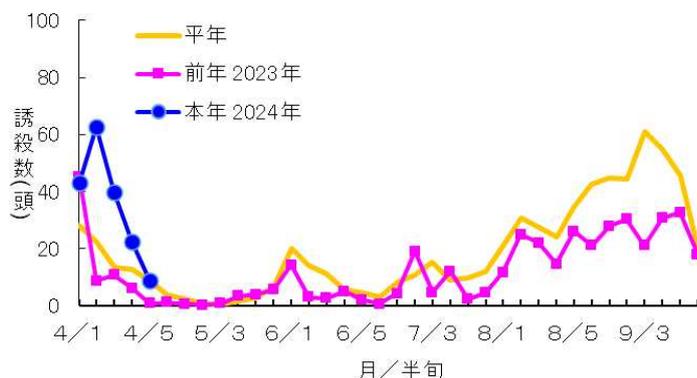


図1 ナシヒメシクイムシ フェロモントラップ誘殺数推移  
※ 鳴門市、松茂町の7地点平均

## Ⅲ. 野菜 夏ネギ

### さび病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年(10.3%)に比べてやや高いが、発病株率は0.7%と、平年(0.9%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。
- (2) 発生前または発生極初期から、定期的に薬剤を散布して予防する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、圃場外で処分する。

### ネギアザミウマ

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「中」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が88.9%と、平年(84.9%)並の発生であるが、被害度は12.3と、平年(5.6)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が4月27日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

### ネギハモグリバエ

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、被害度が0.2と、平年(56.0%、2.3)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

- (3)被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。  
(4)春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

#### IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

#### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。